

「こう言いました。「私は日本へ来て、もつたいな」  
 というすばらしいことばを知りました。私はこのすばらしい言葉をぜひ世界中にひろめたいと思います」云々と。これに対して小泉さんは「食料不足の時代に、親が子どもに『ご飯は大事だから、残さず最後まで食べなさい』と言ったことからきた」などと説明しました(『時事画報』)。小泉さんの「もつたいな」に対する認識のなんと程度の低いことよと寒心したことであり、ります。みなさん、今更申すまでもなく、もつたいなは、決して戦争中、物が不自由になつて生まれた言葉ではありません。私どもは先祖代々、一粒のご飯粒をこぼしても、「天地万物のいのちがこもっている、もつたいな」から拾うて食べなさい」と教えられて来たのです。  
 「もつたいな」「おかげさま」「ありがとう」「ようこそようこそ」「こういふ受け身表現は仏教徒の、特に浄土真宗門徒の特色であります。亀井勝一郎さんは、「浄土真宗門徒には受け身の強さがある」と言われたそうです。「諸法縁起」という言葉があります。「この世の中のすべてのものは、お互い関係し合うて生きている。私は決して私一人では生きられないし、また私は私以外のもののいのちの上に生かされているのだ。」との喜びをつくづく思うたことであります。  
 最後に京都で手術前に作つた下手な漢詩をお目にかけます。

術前偶成(偶然に出来上がること)

東山春靄欲新晴 東山の春靄(春の雲)新晴せんと欲す

今日桜雲盈洛京 今日桜雲洛京に盈つ

明日委身扁鵲術 明日身を委ぬ扁鵲の術(外科手術のこと)

人生看得幾清明 人生看得は幾清明ぞ

ちようど手術日が四月四日清明の日でした。清明とは二十四節気の一で、一年で最も気候の良い時節とされます。はたしてこれから清明の日を幾度迎えることができるであらうかとの意。また、

羈愁(たびのうれい)

窓前鳩子影 窓前鳩子の影

此地冷春光 此地春光冷ゆ

客舎療痾日 客舎痾を療するの日

復懐灰嶺蒼 また灰嶺(灰が峰)の蒼きを懐う

生かされて 生くるいのちの尊さよ  
 名もなき草に 光あふるる (読人不知)



第 3 9 回 初 参 式